

平成28年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時・場所

平成29年1月11日（水曜日）午後2時から午後4時まで
東京都健康安全研究センター 本館6階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：健康被害事例の検討

平成28年6月1日から平成28年11月30日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した22事例（うち18事例は、同一患者が複数製品を同時に摂取。したがって、患者としては5名）について検討を行った。

22事例（患者数は5名）の検討の結果、医療機関へ情報提供し、類似の症例を積極的に収集するよう努めるものとされた事例は3事例（下血1例、皮膚症状1例、肝機能障害・検査値異常1例）であった。これらについて、都医師会、都薬剤師会を通じて各会員へ留意すべき関連情報も含めて情報を提供し、類似事例の収集への協力を依頼した。

また、21事例（患者数は4名）について、平成18年7月1日から収集した類似の事例等を踏まえ、都民への普及啓発について検討すべきとされた。

さらに、18事例（同一患者が同時に摂取していた事例）については、個々の製品価格が比較的高額なものも多く、購入に際して計100万円ほどを費やし、生活を圧迫されるほどの状態であった。このことから、健康被害のみでなく、患者の経済被害防止の観点にも着目していく必要があり、医療機関へ情報提供すべきとされたため、都医師会、都薬剤師会を通じて各会員へ情報提供を実施した。

なお、今回の事例について精査した結果、緊急調査等が必要な事例は無かった。

(2) 報告：平成28年度第1回専門委員会検討結果に基づく公益社団法人東京都医師会及び公益社団法人東京都薬剤師会の各会員への情報提供

次の事項について報告した。

- 平成28年度第1回専門委員会における検討の結果、医療機関へ情報提供し、類似症例の積極的情報収集に努めるものとされた4事例（乳房痛・乳房緊張、全身発疹、血清カリウム値上昇、嘔吐）について情報提供し、類似事例への収集への協力を依頼したこと。

(3) 報告：平成 28 年度食の安全都民フォーラム「健康食品との上手な付き合い方～今だからこそ、機能性表示食品を考える」の実施

次の事項について報告した。

- ・平成 27 年度第 2 回食品安全情報評価委員会において、当専門委員会での検討結果を踏まえた「健康食品に関する都民への普及啓発のあり方」について検討すべきであるとされたこと。
- ・この検討結果を踏まえて、昨年 9 月に健康食品をテーマとした都民への普及啓発事業を実施したこと。

(4) 報告：収集事例の集計結果

平成 18 年 7 月 1 日から平成 28 年 11 月 30 日までに収集した 349 事例の集計結果について報告した。

なお、製品と症状との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

ア 収集事例の内訳

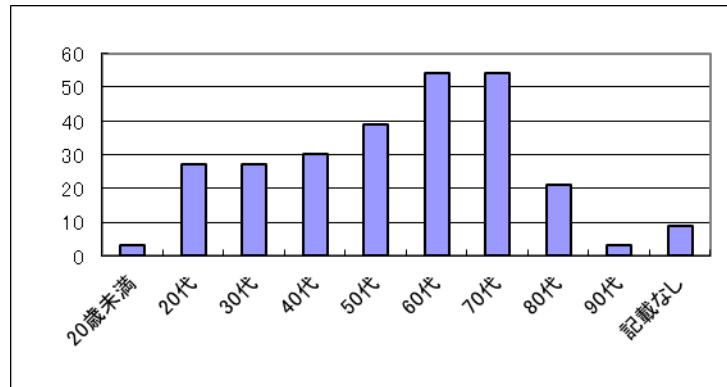
医師会	157人	延べ	228製品
薬剤師会	110人	延べ	121製品
計	267人	延べ	349製品

イ 年齢別人数分布

年齢	患者数	利用目的の主な内訳 (その他・不明・記載なしを除く)
20歳未満	3	健康維持・増進・栄養補給 2、ダイエット1
20代	27	健康維持・増進・栄養補給 3、ダイエット 14、バスタップ 2、美肌 2、強精 1
30代	27	健康維持・増進・栄養補給 5、ダイエット 12、美肌 4、血液をさらさらに 1
40代	30	健康維持・増進・栄養補給 7、ダイエット 9、関節痛(ひざなど)1、美肌 2、強精1、ドライアイ1、排尿障害 1
50代	39	健康維持・増進・栄養補給 18、ダイエット 5、関節痛(ひざなど)8、美肌 4、癌予防1、便秘 1
60代	54	健康維持・増進・栄養補給 16、ダイエット 3、関節痛(ひざなど)15、血液をさらさらに 2、美肌 1、強壮1
70代	54	健康維持・増進・栄養補給 17、ダイエット 1、関節痛(ひざなど)17、血液をさらさらに 3、美肌 1、頻漏尿改善 1
80代	21	健康維持・増進・栄養補給 8、ダイエット 1、関節痛(ひざなど)9、血液をさらさらに1、美肌 1、味覚異常 1、血糖値改善 2、便秘 2
90代	3	関節痛(ひざなど)1
記載なし	9	健康維持・増進・栄養補給 1、ダイエット 2
合計	267	健康維持・増進・栄養補給 75、関節痛(ひざなど)50、ダイエット 48、

健康維持・増進・栄養補給は 90 代を除くすべての年代に見られる。ダイエットは 20～40 代、関節痛は 50 代以上が多い。

人数 (N=267)



年齢別人数分布によると、50～70代が多い。

ウ 性別割合

性別割合によると、女性（198人、74%）は、男性（65人、24%）の3倍以上であった。

エ 基礎疾患の有無

基礎疾患については、有（150名、56%）、無（78人、29%）、記載なし（39人、15%）であった。

オ 症状・異常所見等

症状・異常所見等	患者数
発疹・発赤・掻痒	96
肝機能障害、肝機能検査値異常	40
胃痛・胃部不快感・吐き気	31
下痢・軟便	23
出血、出血傾向	10
頭痛・吐気	8
めまい・ふらつき	7
便秘	6
血圧上昇	6
尿酸値の上昇	4
その他	78 ¹⁾

※ 複数回答あり

1) 検査値異常（肝機能検査値・尿酸値を除く）、味覚異常等

症状・異常所見等で最も多かったものは「発疹・発赤・掻痒」の96名で、全体の31.1%を占めている。次いで「肝機能障害・肝機能検査値異常」が40名（13%）、「胃痛・胃部不快感・吐き気」が31名（10%）であった。

なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

平成 29 年 1 月末現在

	氏 名	所属
○	梅垣 敬三	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 情報センター長
	小林 弘幸	公益社団法人 東京都医師会 理事
	志村二三夫	十文字学園女子大学 副学長、人間生活学部 教授
	松本 有右	公益社団法人 東京都薬剤師会 常務理事
	水谷 太郎	茨城県筑西市 医療監
	山口 正雄	帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 教授
	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 振興部・海外室 次長

(○) 座長